

平成26年10月発行 発行者 砺波カイニヨ倶楽部 代表幹事 柏樹直樹
事務局 富山県砺波市表町14-10 電話 0763-33-6588 天野一男建築工房内

秋晴れいっぱいの立山方面旅行・26名参加

10月11日(土)、砺波カイニヨ倶楽部「秋の旅」は立山町方面へ行って来た。
大変おだやかな秋晴れの中、26名の参加で、立山町半屋(ナカリヤ)・小川高賢さん宅、芦峯寺・雄山神社、教算坊の庭の三ヶ所と、立山博物館を見学した。
はじめての見学地という人も多く、大変好評だった。

小川高賢宅ケヤキの屋敷林

16本のケヤキ相観のカイニヨ、正面「門ケヤキ」の風格で迎える。
右側のケヤキの幹周り4.10m・樹高30m、対になる右側のケヤキは少し細いが二本立ち上がる。

門ケヤキは小川宅のカイニヨを象徴し、天をつく樹勢は圧巻で誰もが驚いて見あげる。屋敷中央に家屋があり、その後全面にケヤキの大樹がかこみ、すっぽり家をつつむ。

屋敷林を構成している主な木は、ケヤキ16本の他、スギ6本、クリ、カキ、カシ、ツバキが共生、庭北面にモウソウが、前の道路面にマサキの生け垣があった。自然体で、シンプルな安堵感のただようカイニヨ。

早朝から広い庭の落葉をはき、新しいホウキ目が見られる中で迎えてもらった。

息子さんの高賢さんの紹介で、おばあちゃんが話された。

- ・40年代の土改事業で裏方(N面)に道をつくる計画で、7本のケヤキを伐った。
しかし、根の掘り取りがひどく手間がかかるといって道は中止になった。
- ・まわりの家々にもケヤキはあったが、高値な時代に消えてしまった。
- ・昔から家はケヤキが多く、敷地も広がった。70本余りあったときいている。富山の「大和」からの目印になっていた。
- ・今は8代目だが、途中で切れたこともあり、敷地は狭くなって、1,200坪ほど。
- ・夏でも涼しく、扇風機はいらない。昔は家の前の石垣にすわってみんな一服して行かれた。ケヤキの葉は菊に使うといつて大変よろこばれたこともある。
- ・今は、はき掃除に難儀しとる。近所からは落葉・枯枝のことで不満がある。よわとっっちゃ。

× × × ×

一同屋敷を一回りして、壮快で明るいケヤキの林内から、やわらかな暖かさをもらった。
おばあちゃんに「大変やけど大事にしておいて、地域の宝だから」と言葉をかけ、見学を終えた。



小川高賢宅「門ケヤキ」と正面全景



参加者が小川さんの説明を聞く

〈芦峯寺・雄山神社のスギ社叢〉

面積1.8haで長方形、ゆるやかな勾配のある境内、社殿の後ろは山で神社の借景になる。
祈願殿、若宮、大宮までの長い参道沿いにスギ大古木が見事に成立する。調査では、スギ巨木(周囲径3~6m、樹高25~40m)が120本、それを包むようにまわりに林令の異なるスギが植えられている。巨木の樹令は300~500年生。低木に、アスナロ、ユキツバキ、ヒサカキ、アオキ、エゾユズリハが入る。草では、エンレイソウ、ツクバネソウ、リョウメンシダ等、合計160種の植物がある。

過去に、ここからタテヤマスギ種子を採取していた。昭和42年、県天然記念物に指定された。
地元の松久卓さんから、神社の歴史やスギ樹令のお話をきいた。

〈教算坊のカイニヨと庭〉

敷地は、700坪・長方形で上木のスギ、モミ、イチヨウ、トウヒ、カエデが適当に配置され、下の全庭に陽光が入る。家屋を真中に、前庭7割、後庭3割の全敷地はコケの美しい庭になっている。

昔の宿坊で、門は京都から持ってきたコケラ葺き。庭は、池泉廻流庭園、その中心に「心字池」がある。下木や草花が沢山配され、全面のコケの緑はみずみずしくさわやかなジュウタンとなっている。

家のつくりは「坊」づくり、立山登拝の拠点で、三十三宿坊の一つ。人工の庭の美しさと上木の木もれ日の射しこむのどかさが最高。昔、登拝者の感じ取った、雰囲気に入ることができた。長い時空と人が近づき手をかけているカイニヨの一例としてふれた。少し勾配のある敷地が見事に生かされている。



雄山神社の社叢の中で説明を聞く



教算坊の庭を見学（杉の大木があり山間部の特徴か）

カイニヨ見学のメイン（三ヶ所）の他、立山の歴史にひたる施設を見学した。

遙望館で立山の映画を、その近くの布橋を渡り、閻魔堂と石造群をみた。山岳集古未来館を見学。その後メインの立山博物館で立山の自然・歴史・文化を知る常設館と特別企画展「近代の文人と立山」をみた。多賀学芸員が丁寧に案内をして下さった。

密度の濃い見学の旅は楽しく終り、午後4時30分となみ散居村ミュージアムに到着した。

参加者の感想

- 藤井 一秋さん●ケヤキの家に感心した。雄山神社のスギ大木はすごい。
- 北嶋 隆さん ●ケヤキばかりの屋敷にびっくりした。台風になるとスギは心配だがケヤキと組み合わせると良いのではないか。
- 松田 憲さん ●散居は扇状地でできたものだということが立山の景観からも感じた。ケヤキ宅は、みる者には大変良かったが、維持世話は大変だろう。
- 山本 昭芳さん●はじめてみたところで大変良かった。富山南部から立山にカイニヨの多いことにびっくりした。
- 林 一美子さん●ケヤキは素晴しかった。おばあちゃんの毎日の管理を思うと気の毒に思った。
- 西岡 稔さん●雄山神社のスギ古木の勇壮さにびっくりし、のみこまれた。
- 鍋沢 純三さん●カイニヨを守ることは大変。雄山神社も博物館もはじめてで良いところをみた。
- 柏樹 勇さん●雄山神社のスギはすごかった。二又スギの大木の多いのはどうしてかな。博物館は良い勉強になった。
- 中田ちず子さん●全部楽しかった。カモシカ苑の志鷹宮のスギ古木も雄山神社のスギも心に残った。なくしてはならん木だ。

カイニヨ見学の意味

カイニヨ見学の意味は二つある。

一つ目は、どっぷりつかっている自分の家やまわりのカイニヨの姿から、離れた所の景色や家のカイニヨにふれることで、必ず気づくこと、学ぶことがある。

砺波のカイニヨの良さと問題、カイニヨの立っている方角や樹種の組み合わせ、母屋・納屋とカイニヨの関係等、今度の立山方面のカイニヨや建物の量と広さと砺波とではどこか違う。

又、どの家もスギが中心で、その樹令は壮令のものが多く、母屋を囲んで全面に木が成立している家が目立ったこと等、もっと深く学ぶことも多いように思われた。どこの家のカイニヨも必ずどこか違っている。だから限りなく興味がわく。自分のカラだけにとじこもらないで足で稼ぐ努力をおしまない柔軟な人間になる機会が道具だ。

二つ目は、訪ねて個人の屋敷林に入りその家の人から話をきき、色々話しあうことで苦勞への共通した目からの交流で親しくなり、見学した感動や良さを思いきって返すことで訪ねた家の人への大きな激励になる。

人と人がカイニヨを通し、本音で話し合い、その家の前庭だけでなく、後ろやまわり全体までみせてもらう。一人でのこのカイニヨの中に入ることはなかなかできない。

又、訪ねても始めは仏頂面で言葉のかたい説明でも、別れ際になつての会話ではテンポも早く楽しく時間をおしんで色々シャベルように変わる。

カイニヨは人と人をつなげる。カイニヨは人と一緒に生きる交流の魔物である。

どこのカイニヨを見に行っても、最後には楽しくつき合ってくる。この変化が限りなく大事で価値のある現象だ。

とにかくカイニヨは人の化身、人と親しくつき合うことは、カイニヨの家に懐を開いて近寄ることだ。 (柏樹 直樹)



参加者全員（雄山神社正面）